

実証データの要約

年	期間	エコブリーズ(EB)		エアパイプ(AP)		EB/AP 電気量 比率
		年間総電気量 (kWh)	1時間当たり 電気量(kWh)	年間総電気量 (kWh)	1時間当たり 電気量(kWh)	
1	2014.10-2015.09	43,056.1	4.92	84,597.2	9.66	50.9%
2	2015.10-2016.09	37,899.1	4.31	78,984.0	8.99	48.0%
3	2016.10-2017.09	36,615.0	4.17	76,625.4	8.72	47.8%
4	2017.10-2018.09	37,056.9	4.25	77,183.8	8.84	48.0%
5	2018.10-2019.07	28,362.0	4.31	58,006.2	8.82	48.9%

注) エコブリーズ鶏舎、エアパイプ鶏舎とも1棟4段、4列で34,500羽収容

このほど、5年間にわたる積算電力累計に基づいて、

エコブリーズ鶏舎の電力消費量が、エアパイプ鶏舎の電力消費量よりも優れていることが明らかになった。

エコブリーズ鶏舎は、100V電源(照明)を除くウインドレス鶏舎の総合的な動力電源使用量の継続調査を行ってきたが、

その中で、東日本の農場で糞乾、換気、給餌、集卵、除糞など、100V電源(照明)を除くウインドレス鶏舎の総合的な動力電源使用量の継続調査を行ってきたが、

ハイテム『エコブリーズ』 ウインドレス総電気代半減、低卵価に強い味方 5年間にわたる実証データを公表

ハイテム(安田勝彦社長)は、岐阜県各務原市テクノプラザ2-10)は、エアパイプ糞乾電気代がウインドレス換気電気代を上回る事実を重視し、同社が採用しているブレード(うちわ)スイングによる糞乾(同社システム名「エコブリーズ」)電気代の徹底削減に取り組んできた。

実証データを公表した。結果は上表の通り。ハイテムのエコブリーズ鶏舎の糞乾は終日運転しているのに対し、実証対象となったエアパイプ鶏舎では、午前7時から午後2時までピーク電気代削減のため糞乾運転を停止しており、エコブリーズ鶏舎と同じ終日運転とした場合は、電気代の差はさらに広がると思われる。

糞乾第1号は1991年で28年前に遡るが、ハイテムでは2009年の同社天津工場稼働を機に、

ブレードの駆動方式をベルト駆動から高度な加工精度が要求される直結駆動にレベルアップし、駆動モーター容量の極小化を図ることで、それまでのブレード方式に比べて約30%の省エネ化に成功。こうした技術の積み重ねが今回の実証データが得られた背景になったと説明している。